



9—暖かな光が降り積もった雪を照らす
10—リビングからは、雪の景色も楽しめる



6—玄関を入るとさらに音が、奥行きのある「音軒家」のイメージが響なる
7—玄関横の水降廊家、低い壁からリビングを眺めることもできる
8—玄関左手には、坪庭をイメージした玉砂利入りのニッチが



が全然違います。
 松山 今回の家づくりで1番印象に残っているのは「忍音屋敷」という言葉。どこかにカウラリがなければいけないかなくて(笑)。それじゃ2階からのぞけるようにしようか、と。奥様 一石二鳥が大好き。のぞき穴もそうだけと1つで何役も演じてくれる仕掛けってお得な感じがします。リビング・ダイニングの端から端までの長いカウンターを造ってもらったんですが、物を置くだけじゃなく、収納やパソコン

が全然大丈夫です。
 松山 吹き抜けから家族の団らんを見下ろす天の夢が実現できませんでしたので、階段の上のところに「のぞき穴」を造ったんです。
 奥中 穴から音が抜けてくれるので反響の仕方が全然違います。
 松山 吹き抜けから家族の団らんを見下ろす天の夢が実現できませんでしたので、階段の上のところに「のぞき穴」を造ったんです。
 奥中 穴から音が抜けてくれるので反響の仕方が全然違います。

音楽が戻ってきた!

IESU 音の問題については具体的にどのように対応しましたが?

奥中 音が反響しないようするには部屋の気候(容積)を大きくすることが大切。空間を小分けにすると音が響きやすくなります。それなら細長い敷居を生かして、奥行きのある大きなリビング・ダイニングを併用しましょう。と提案しました。天井のルーバーはデザイン的な意味もありますが音が拡散されるためのもの。木を生かしたインテリアも音の反響を防ぐ上で効果的です。音が響かないよう木材の継ぎは接ぎめにしています。

たので「天井にうまくいく」という確信がありました。

奥中 低めの窓が仕掛けて暮らすにはちょうどいい。

IESU キッチンも床を下げてカウンターの高さを座った時の目線に合わせてもらいました。